

～新々堀川の歴史～

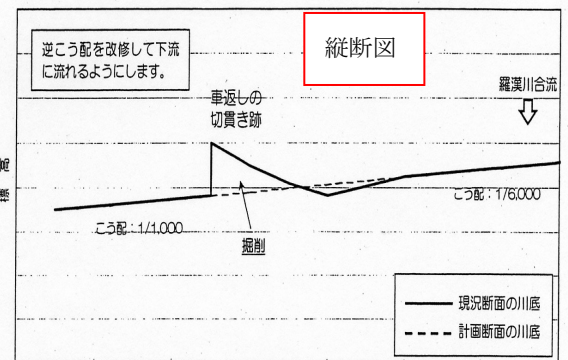
北九州支部 植田 亮二＊

新年明けて早々、隣の席の福建評議員Tさんから「福建の作文書いてくれんやか？」とのありがたい言葉を頂戴し、「ここで断ったら男が廃（すた）る！！！」と思い、「いいですよ。」と軽く承諾してしまったのが事の始まりでした。と、大袈裟に聞こえますが、ただ単に何を書こうか考えたのですが、あまりいい題材が思い浮かばなかっただけです。5分間考えに考え抜いた結果、2・3年目に担当した新々堀川河川浄化事業について執筆させて頂こうと思います。

はじめに自己紹介しますが、私は福岡県に初級採用されて5年目のみやま市(元高田町)出身の25歳独身です。県に就職して早5年が経過しようとしていまして、2ヶ月後には初の転勤です。最近は「どこに転勤するんやろか？」と想像し、ワクワクドキドキしながら仕事をしています。余談ですが、飲み会が多いせいか就職してから15kg太りました。先日、ある方の入籍祝賀会に参加した際に久しぶりにあった元同じ系の先輩のMさんから「久しぶり、メタボリック君」と、言われさすがにヤバイなと思うようになってきました。けれど、未だに飲み会を断るところまでの決心は出来ておらず飲み会にふるって参加している自分がいます・・・m(_ _)m

雑談はここまでで、早速新々堀川河川浄化事業について書かせて頂きます。まず新々堀川の概要についてですが、中間市にある唐戸水門を起点に北九州市の洞海湾に流れ込む全長約9kmの一級河川です。この河川は、江戸時代に洪水対策のため黒田長政によって着手され、途中の中断を経て200年ほど前に開通しました。当然の如く江戸時代にはバックホウなどの機械があるわけもなく、人間の手で金づちやのみを使い掘られました。想像するだけでゾッとします。洪水対策はもちろんのこと、灌漑用水としての利用、明治から昭和初期にかけては筑豊炭田の海運路として重宝されていました。しかし今では炭坑も閉山し、周辺からの家庭雑廃水が流れ込みヘドロが堆積し悪臭を放っていたことから平成9年度及び平成11年度に水巻町より環境汚染の改善を理由に河川改修事業促進の要望が出されました。平成11年9月29日の集中豪雨で町道が一部冠水するという事態もあり、平成

江戸時代の様子



距離

11年度より事業着手に向けて関係機関との協議が開始されました。もともと下流域は北九州市の都市基盤河川改修事業、上流域では県事業として着手されていましたが、用地買収の難航等の理由から事業の遅れが生じていました。なおかつ、江戸時代に人力掘削されたときののみの跡が残っており、教育委員会より歴史的価値が高いとの判断が下されていたため、関係教育委員会との協議にも時間を要していました。しかし地元からの、一刻も早く悪臭をどうにかしてほしいとの声は鳴り止みませんでした。そこで、改修までの暫定という形で工法を検討しました。そもそもヘドロの堆積は、河床が上流よりも下流のほうが高いため上流部（水巻側）において河川水が停滞するために起きていました。下流部の河床の高い部分に部分においては河床（岩）の一部掘削、上流部の河床の低いところにおいては盛土を行い河川の縦断勾配の是正を図るよう計画を立てました。計画の説明を関係機関に行ったところ大筋で了解を得られ、平成11年度着手より下流部の岩掘削を着手しました。順調に工事も進んでいたのですが、平成13年度に北九州市教育委員会より工事の再考を求められ、さらに文化財保護7団体より「先人たちの知恵と努力がしのばれる貴重な文化遺産であり傷つけずに残してほしい。」との理由から工事中止の陳情書が出されました。工事を一時中止し、教育委員会及び保護団体に対し、川沿いの住民の思いを伝えたと一部団体を除いては納得していただく事が出来ました。条件として、河川内をあまり乱さぬよう人力（コンプレッサ、ピック）で施工し最小限に掘削することや掘削したところが目立たぬよう極力左岸側に寄せること、工事着手前には現場立会し、のみの跡が河床に残っているか調査をすることなどが出されました。結局平成14年度まで協議に時間を要し工事を施工する事が出来ませんでした。ここまでの経緯は前任の方々の手によってなされました。私は、平成15年度の岩掘削工事より担当となったのですが、当初設計では人力掘削軟岩Ⅱで設計していました。いざ、現場に入り岩を掘削し始めたところ業者から電話があり、岩が硬くてなかなか掘れません



新聞記事



との事でした。現場に赴くと、ものすごい音（金属音のような）がそこらじゅうに響いていました。これは軟岩Ⅱの硬さではないなと思いすぐに岩質検査を行った結果、中硬岩であることが判明しました。業者から、機械で施工してよいかとの要望が出たのですが、これまでの経緯を説明して、人力でしか施工出来ない事を渋々納得していただきました。岩が中硬岩であったことから工期も3ヶ月延び、3月末ギリギリまでかかってしまい施工業者も大変だったと思います。工事が終わり施工業者から、「植田さん、手の震えが止まりません。耳鳴りがします。」と冗談交じり言われました。「本当に大変でしたね、お疲れ様でした。」と苦笑いしながら返すので精一杯でした。平成15年度までに下流部の切土区間が終わり、平成16年度から上流部の盛土区間を着手することとなったのですが、盛土するのに際し堆積したヘドロの浚渫が必要だったので、浚渫工事を別途発注し、浚渫が完了したあとに教育委員会と現地立会したところ、船着き場跡があること判明しました。「この現場はいろいろ出てくるな。」と思いながら、再度教育委員会との協議しその結果、教育委員会から「詳しく現地を調査させてほしいのでそれまで盛土を待って頂けないか。」との申し入れがありました。教育委員会の要望に応じ、盛土工事の着工を調査が終わるまで待つこととなりました。自分の構想では、盛土を完成させ事業を完了してから係移動しようと思っていただけに少しだけ悔いが残りました。色んな意味でやりにくい現場をNさんに引き継ぐのは心許なかったけれど、しっかり者のNさんによりきちんと事業完了されてすっかりきれいな川となりました。（大袈裟ですが(^_^;)）お疲れ様でした！

最後になりますが、この事業を担当し協議の重要性をわかっていたつもりでしたが、ここまで大変なものとは思いませんでした。歴史的価値のあるノミの跡を残してほしいと訴える保護団体及び教育委員会、実際川沿いに住み環境改善を訴える地元住民。それぞれの思いがわかるだけに、両者の納得のいく形を提案するのには苦労しましたが勉強になりましたし、この川に対する思い入れが大きくなりました。是非、時間があるときに江戸時代のノミの跡と今回掘削工事時に付いた平成のノミの跡をご覧に来て下さい。拙い文章で読みにくかったと思いますが最後まで読んで

掘削完了



船着き場



盛土完了



頂きありがとうございました。

*北九州土木事務所道路課交通安全係

平面図

